

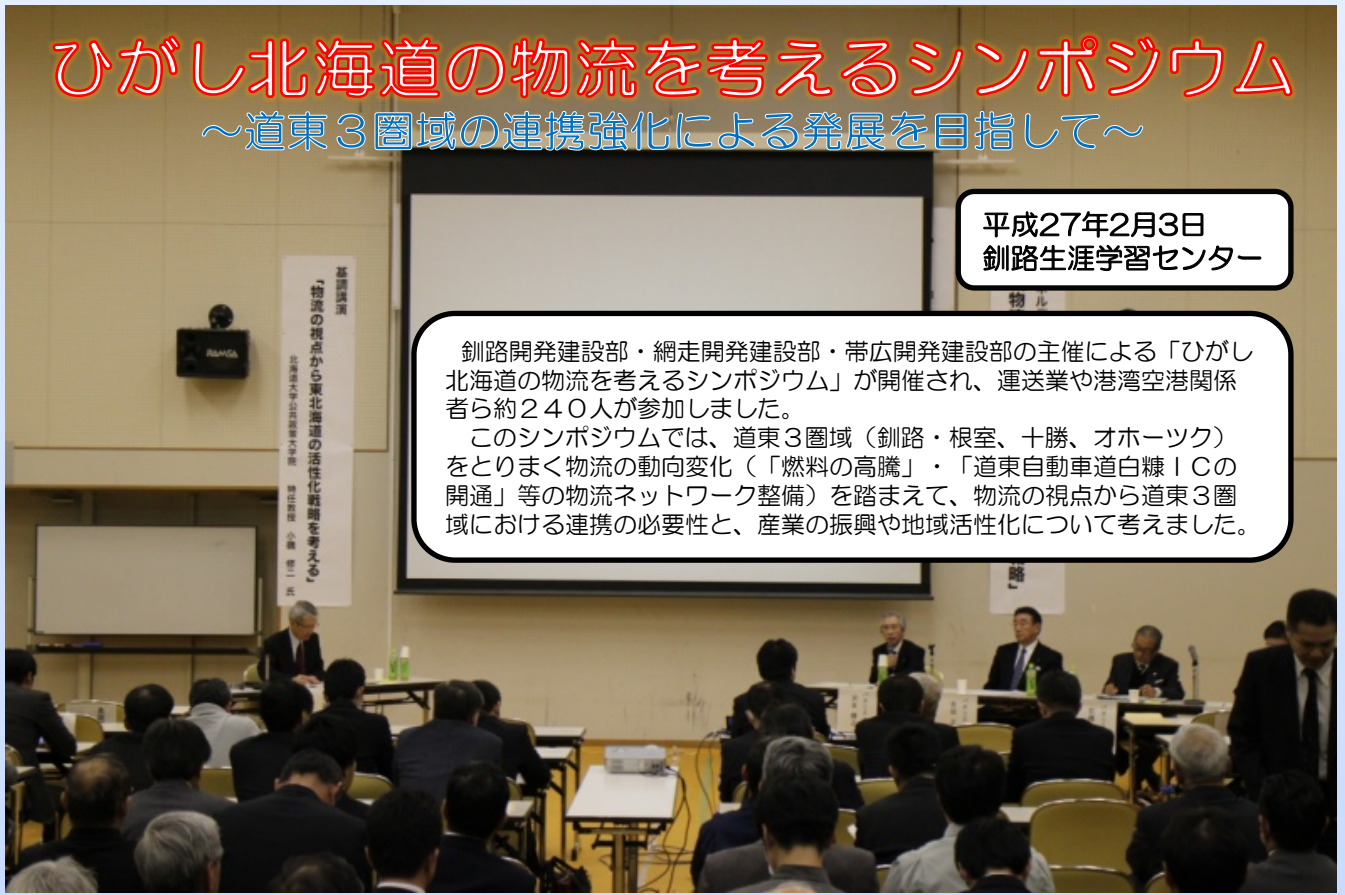
ひがし北海道の物流を考えるシンポジウム

～道東3圏域の連携強化による発展を目指して～

平成27年2月3日
釧路生涯学習センター

釧路開発建設部・網走開発建設部・帯広開発建設部の主催による「ひがし北海道の物流を考えるシンポジウム」が開催され、運送業や港湾空港関係者ら約240人が参加しました。

このシンポジウムでは、道東3圏域（釧路・根室、十勝、オホーツク）をとりまく物流の動向変化（「燃料の高騰」・「道東自動車道白糠ICの開通」等の物流ネットワーク整備）を踏まえて、物流の視点から道東3圏域における連携の必要性和、産業の振興や地域活性化について考えました。



小磯修二特任教授

初めに、北大公共政策大学院の小磯修二特任教授が「物流の視点から東北道道の活性化戦略を考える」と題した基調講演をしました。小磯特任教授は、地方は大都市と比較して生産と消費の間に距離という隔たりがあるといった、総合的な交通・物流政策の難しさや、物流全体を眺めて連携する「スマート化」による効率化等を指摘し、「モノの動きに行政区域はない。モノの動きから、あらためて政策、制度、仕組みのあり方を考えることが重要」と呼びかけました。

その後、小磯特任教授をコーディネーターに、地域経済を担い、物流に携わる有識者4名のパネリストが「物流における東北道道の広域連携戦略」をテーマに、それぞれの立場から意見交換しました。それぞれ「酪農全体の経済力が弱体化し地域で循環するお金が少ないこと」「インフラの脆弱性」「物流の平準化」などを課題として挙げました。



討論の様子